

IP 時代における電気通信番号の在り方に関する研究会
ワーキンググループ（第 1 回）議事要旨（案）

1 日 時

平成 17 年 1 月 20 日（木）10:00～12:00

2 場 所

総務省 10 階 共用 1001 会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

相田 仁（リーダー）、一井 信吾（サブリーダー）、秋元 洋子、荒本 和彦、栗野 友文、市来 裕教、稲田 晃典、大熊 博之、加藤 義文、川西 素春、川村 正道、小出 利一、佐野 晋、澤田 和良、清水 博一、白澤 進、内藤 郁夫、西和雅、西川 嘉之、藤岡 雅宣、堀内 泰樹、山田 博

（以上 22 名）

(2) 総務省

金谷電気通信技術システム課長、門馬番号企画室長、深堀課長補佐、上野番号企画係長、藤原番号管理係長

4 議 事

(1) リーダー及びサブリーダーの指名について

総務省より、本研究会第 1 回に斎藤座長よりワーキンググループのグループリーダー、サブリーダーとして、それぞれ相田構成員、一井構成員が指名された旨の説明があった。

(2) 議事 「ワーキンググループの進め方について」

総務省からワーキンググループ進め方に関する説明が行われ、作業分科会（アドホックグループ）の設置、及び作業分科会での電話番号需要調査及び分析の実施が提案された。質疑応答により、総務省より以下の説明がなされた。

20 年後の需要調査結果については、高い精度のデータとはならないと考えられ、参考程度に行うものである。

平成 14 年度番号研究会で行った需要調査・分析結果と現時点の状況がどの程度合致しているのかを次回会合で報告する。

アンケート集計結果について補正が必要な場合にはアドホックグループにおいて検討することとする。

事業者アンケートに関する意見やアドホックグループ構成員の推薦等がある場合は1月25日(火)までに総務省に連絡することとなった。

(3) 議事 「ENUMトライアルへの対応」

佐野構成員より「ENUMトライアルの現状」、総務省より「SG2におけるENUMの検討状況」「ENUMトライアルに関する検討の進め方」のプレゼンテーションが行われた後、質疑応答において、総務省及び佐野構成員より次のような説明がなされた。

ENUMトライアル用サーバの運用・管理については、総務省が行うこととし、外部組織に業務を委託する等の形態をとる。

現在、ITU等においてはENUMトライアルでは「e164.arpa」を使用することとされており、今後国際相互接続を行う際には国際的にオーソライズされたドメインネームを利用する必要がある。

ENUMトライアルに関する意見のある場合は1月25日(火)までに総務省に連絡することとなった。

(4) 議事 「1XY番号に関して」

西川構成員よりNTT東西以外の事業者が料金・営業案内サービスを提供するための新たな1XY番号を付与し、他事業者から接続可能とするとの提案が行われた後、構成員から次のような意見が出された。

西川構成員より希望する全ての事業者が料金・営業案内用番号を利用できることが理想だが、そこには議論があるだろうとの追加説明があった。

小出構成員より全事業者に1XY番号を指定するには番号が十分ではないのではとの意見があった。それに対し、西川構成員より網改修費用もかかるため、必ずしも全事業者が利用を希望するとは限らないのではないかと意見があった。

相田リーダーより提案のように1XY番号を全事業者に指定した場合、3桁では番号容量不足のため、4桁～5桁以上とする必要があるが、事業者識別番号を営業案内用に利用することにより、1XY番号を利用せずに短い桁数で実現可能ではないかと意見があり、特に反論はなかった。

(4) 議事 「その他」

相田リーダーより、資料1-6様式2の事業者アンケートの単位は1万番号であるが、回答は小数点第1位までの様式となっており、千番号単位で回答頂きたい旨を明示した方がよいという意見があった。

相田リーダーより、事業者アンケートをよりわかりやすい文面とすべきとの

意見があった。

(5) 次回会合スケジュールについて

全体を通じて、意見のある場合は1月31日(月)までに総務省に連絡することとなった。

次回ワーキンググループ会合(第2回)は、3月中旬を予定しているが、別途総務省より連絡することとなった。

以上